（有）五十嵐会計事務所通信　ONLY ONE　VOL.009

いつもお世話になります。夏の季語である「扇」は、涼しくなって出番がなくなると「扇置く」という秋の季語として再登場します。いまだに扇が手放せないほど残暑が厳しい地域もあれば、随分前に扇を置いた地域では爽やかな秋風が吹きはじめます。季節の変わり目には、南北に長い日本の地形を改めて実感します。

今月からこのコラムは私が担当します。
9月から二代目経営塾を私が塾頭になって全5回実施することになりました。
現在の経営者の皆様は団塊の世代の方々が多く、事業承継をそろそろ考えておられる方が大勢いらっしゃいます。事業承継というと、株の承継を最初に考える経営者が多いのですが、もちろん株対策も大事ですが、一番は人の承継です。

後継者に対する社長の嘆き



・頼りない（リーダーシップに欠ける）
・金の苦労、大切さを知らない。（数値に弱すぎる）
・社内で浮いている。（評論家的で実効性がない）
・会社よりも自分や家庭を大切にする。（よきパパでありたい）

高年齢に差し掛かって周囲を見回してみると、わが企業をしっかりと受け継ぎ発展させてくれそうな人物は、中小企業にはいないものです。

考えてみてください。

① 若い故頼りなく見えるのは当たり前。先代社長のように超ワンマンな手法はとれません。ワンマンを踏襲すれば、必ず周囲の顰蹙（ひんしゅく）をかいます。
② これまで金の苦労を知る体験がないから、金銭感覚や経営数値に疎いのは当り前です。
③ 若いだけに、経験も能力も不足しています。急にはなにもできず、社内に身の置き所がないのも当り前
④「継げ、継げ」と強制され、好きで入社したわけでもないと思っている後継者もいます。
⑤ 妻や家庭があってこその人生、先代の時代とは違うと考えている後継者もいます。

後継者の若さゆえの未熟さは、これからの目覚ましい成長の「のびしろ」でもあるのです。
後継者が潜在的に持っている能力をいかに最大限に引き出すかが大事なことなのです。
学びましょう。
企業承継の大原則・後継者としての覚悟の付け方・行動の仕方・社長の仕事とは何か

とこのようなことで、二代目経営塾をすすめてまいります。
ご興味がある経営者の皆様は、是非ご相談ください。

五十嵐　正明

【今月の教えてキーワード：ギリシャ財政危機】

２００９年１０月ギリシャで政権交代が起きた。新政権は、国家の財政赤字が従来の公表額より遥かに大きいことを発表。前政権のずさんな統計処理、財政赤字の粉飾疑惑が表面化した。政府は公務員の給与引き下げなどを柱とする財政再建策を発表したが、格付け会社はギリシャ国債を格下げした。その信用不安は巨額の財政赤字を抱えるポルトガルやスペインなどにも波及し国債は急落、懸念は欧州全体へ広がりユーロ安も進んだ。

知っとこ！「税務のマメ知識」

【ハンバーガーをテイクアウトして節税に】

深刻な財政赤字のため、いよいよ消費税に関する議論が活発になってきました。現在、日本の消費税率は、非課税のものを除いてすべて一律５％です。今後これが、引き上げられていきそうな気配です。そうなると問題になるのが、「所得に対する逆進性」です。これは、税率が上がると所得が低い人ほど「収入に対する消費税の割合」が大きくなるという考え方です。

そのため消費税率の高い国々では、食料品などの生活必需品等については税率を低く抑える「複数税率」を採用しているところが多くありますが、その課税方法は様々です。

例えばイギリスでは、食料品の税率は0％でも温かい商品などは17.5％になります。また、ドイツではハンバーガーをお店で食べると税率は19％ですが、持ち帰れば7％になります。さらにフランスではキャビアが19.6％でトリュフは5.5％と定められています。このように複数税率は、同じ商品なのにどこで食べるかで税率が異なったり、食料品の種類や状況によって細かく分類されて非常に複雑です。



そのため日本では、消費税率を引き上げた場合、複数税率にするのか、はたまた現状のように一律税率のままで、所得の低い人には食料品などの支出に掛かった消費税分を払い戻す方法にするのかが議論がされています。



今を生きる！
先人の言葉

檀一雄が死ぬ間際に完成させた小説『火宅の人』の中に出てくる有名な台詞。
昨日までの自分に「ざまあ見ろッ！これからだよ」と言い放とうではありません

注目！

「決算診断」してみませんか？

金融機関は融資先（御社）の信用格付け＝企業力を評価しています

社長の経営力（マネジメント・パワー） ＋ 御社決算書の評価（決算診断提案書） ＝ 御社の企業力（総合的な評価）

※ 決算数値を総合的に分析し、
そのデータに基づき
会社の現状と問題点を明確にして、
わかりやすくご説明させて頂きます。

社長と一緒に会社の未来を考えます！！

後継者と新社長のための 二代目経営塾 開催のご案内

前号でご案内しました通り、この度、有限会社五十嵐会計事務所では、「経営のお役立ち」活動のひとつとしまして、**「二代目経営塾」**を開催することとなりました。

経営者には「実務スキル」とともに「リーダーシップ」が必要なことは言うまでもありません。

「二代目経営塾」の目的は、この経営環境の大きな変化の中で**「後継社長様や将来の後継社長の皆様に対して、経営者として必要な経営実務の基礎と、次世代経営者としてのリーダーシップを強化していただく」**ことにあります。
また、研修の中で、ご自身の経営者タイプを戦国武将になぞらえて分析し、歴史からリーダーシップを学んでいきます。

全5回というカリキュラムで**「経営者に求められるリーダーシップの基礎」**と**「明日から役立つ実務」**という視点で企画いたしました。是非、経営のお役に立てていただければ幸いです。

講　義　内　容

第１講
「二代目経営者としての心構え」
・経済社会背景から今、望まれるリーダーシップ
・リーダーシップ概念 （社長の心構え）
第２講
「二代目経営者のリーダーシップ」
・社長診断による現状把握
・今必要なリーダーシップとは
・社長の思いとリーダーシップの技術
第３講
「経営実務：会社の成績表「決算書」を理解する」
・決算書の見方・活かし方を理解して、自社の経営に役立てるポイント
・銀行や税務署は決算書をどのように見ているのか
・決算書を経営に活かす「決算診断」の見方
第４講
「経営実務：「事業計画」の策定」
・どうして銀行は経営計画書を作成してほしいと思うのか？
・明確な経営理念とビジョンを作り、経営計画に輝きを持たせる
・売上目標、利益目標、資金繰り予定表など、具体的な数値計画
第５講
「二代目経営者としての経営力をつける」
・人材の活用と教育方法
・顧客視点に立った現場主義
・経営力と経営改善の決意
・まとめ、修了式

二代目経営塾塾長
(有)五十嵐会計事務所
代表取締役
公認会計士・税理士



講師紹介
ｼﾝｸﾀﾝｸ藤原事務所
取締役社長
統計士・ﾃﾞｰﾀ解析士
長谷川　孝



対 象：二代目社長・社長候補の皆様
定 員：１０名
塾 費：１０５，０００円
（分割納付可）
お問合せ先：(有)五十嵐会計事務所
米沢市金池3丁目2番40号
TEL：0238（22）2776
担当：井上
※定員になり次第、締め切らせて頂きます

※ 第1回「二代目経営塾」の募集は、定員に達しましたので締め切らせていただきました。
（9／7～12／7までの全5回コースとなっております）

※ 日程は未定ではございますが、第2回以降の募集も引き続き行っておりますので、
お気軽にお問い合わせ・ご相談ください。

365日が楽しくてたまらない！「商売のヒント」

今月の商売のヒント：【商売に磨きがかかった人の舞台裏】

行き慣れない高級レストランに招待されても、内心あまり嬉しくない。それより行きつけの店で一杯やったほうがいいと思う。慣れない場所は居心地が悪く、慣れた場所は落ち着くからでしょう。



「心地良い空間や状態」を心理学用語で「コンフォートゾーン」と言います。単に場所の話ではなく、慣れたやり方、しっくりくる考え方、つまり「自分らしい」と思える状況はあなたにとってのコンフォートゾーンなのです。慣れた場所や状況は居心地が良いので能力を発揮しやすくなるものの、「ぬるま湯化」して抜け出せなくなったときは要注意です。一度コンフォートゾーンを意識すると、慣れない事態に遭遇したとき無意識にコンフォートゾーンに逃げ込もうとします。その状況に不慣れなために居心地の悪さを感じて、慣れ親しんだ「今までの自分」に戻ろうとしてしまうのです。今までのやり方で商売が上手くいかないのに、「今までの自分」という枠から出ようとしない人が大勢います。しかし、慣れた状況でもがいても今まで以上の能力はまず発揮できません。それどころか、逆に絶好のチャンスが訪れているときでさえも、「こんな良いことが自分に起きるわけがない」と尻込みしてチャレンジを避けてしまう。「慣れ」も良し悪しというわけです。



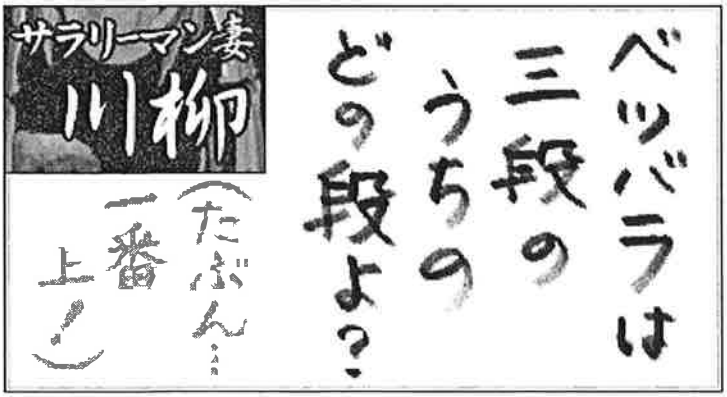
新しい局面を迎えたとき、もしくは慣れたやり方から脱出して状況を変えたいときには、新しい「自分らしさ」を探ってみましょう。商売であれば、商売が上手くいっている人のコンフォートゾーンを積極的に真似てみる。

判断基準も発想も行動のタイミングも自分とは違うので、慣れないうちは居心地の悪さを感じるものです。けれど脳には、どんな環境にも対応できる可塑性（かそせい）という性質があります。繰り返し真似て自分になじませ、徐々に居心地の悪さを感じなくなった頃、あなたのコンフォートゾーン、つまり「自分らしさ」はワンランク上にスライドしているはずです。そんなあなたを周囲は「商売に磨きがかかった」と見ることでしょう。

トレンドを斬る！

コンビニやスーパーで「プチ贅沢」な食品がヒットしています。プレミアムを名乗るビールやアイスクリーム、ロールケーキは通常より数十円高いですが、素材などのこだわりでちょっぴり贅沢な気分が味わえます。レストランでの食事のような優雅な贅沢ではなく、自分の中で満足できるのがプチ贅沢。不景気による節約疲れから贅沢気分を求める消費者の要求に応え、各社しのぎを削っています。数十円の差に上質を追求し、ヒットを生み出す開発力は見習いたいものですね。





(有)五十嵐会計事務所

〒992-0012

山形県米沢市金池３丁目２番40号

電話：0238-22-2776

FAX ：0238-22-2779

mail：cpa-iga@jan.ne.jp